

東北大学と連携し、 考古学と材料科学を融合 学際領域で新知創造狙う



我が国の各専門分野におけるトップ研究施設である全国共同利用・共同研究拠点などが「ハブ」となり、従来と異なる先鋭的研究領域を創出する新たなシステム形成事業「学際領域展開ハブ形成プログラム」。島根大学は、世界屈指の金属材料研究機関である東北大学金属材料研究所のプログラムに参画します。

ハブ形成プログラムで 参画機関の一員に

海外連携校

(グローバル)
韓国・中国との
比較研究

東北大学 金属材料 研究所

(文理融合)
量子ビーム
による
材質分析

社会的 インパクト

出雲発・古代史の 書き換え

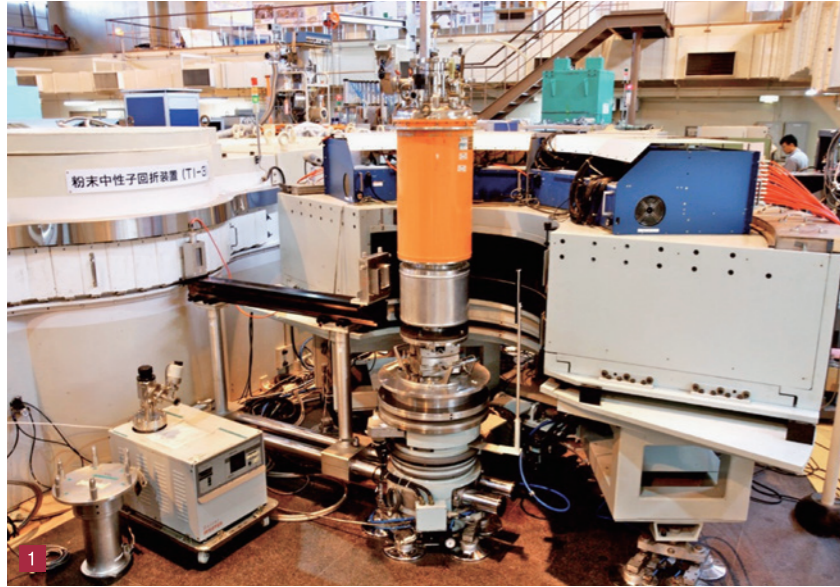
- 原産地同定の新知見
- その世界史的定位

島根大学法文学部

- 青銅器の製作管理・流通・保有・伝世等の過程を分析
- 当時における技術力、社会や権力の実相等を解明

先鋭研究領域

【青銅器・青銅器文化・金工 技術研究を核とした考古学の国際的拠点形成】



1. 東北大学が保有する分析装置「中性子粉末回折装置HERMES」。銅や鉄の化合物の同定、成分比を解析するためのデータ取得が期待される。(写真提供: 東北大学金属材料研究所)



2. 青銅器(銅鏡)を実測する法文学部の岩本准教授。青銅器生産の実態解明には実物の観察が必要不可欠。そうした考古学の分析と材料科学の分析成果の融合を目指す。

地域の中核大学や特定分野に強みを持つ大学が、特色を十分に発揮し、社会変革を牽引できる取組を支援する文部科学省の事業「学際領域展開ハブ形成プログラム」。国立天文台や国立歴史民俗博物館などといった「大学共同利用機関法人」17機関や、全国に100程度ある国立大学などの「共同利用・共同研究拠点」が「ハブ」的役割を担い、組織や分野を越えた研究ネットワークを構築、総合的な創出を目指していくのが目的です。申請された48件の中から、全国8機関の事業が採択。島根大学は、東北大学金属材料研究所の参画

機関の一員としてプログラムを進めていくことになりました。

島根大学と東北大学は材料科学領域の研究・教育を中心に連携を深めており、島根大学が2023年4月に新設した材料エネルギー学部には、東北大学から世界トップクラスの研究者が複数人着任しました。今回のプログラムで同大金属材料研究所が掲げた事業テーマは、「人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成」。専門分野を越えた学問領域を「学際領域」と言いますが、中でも人文科学や社会科学などの文系学問と、自然科学分野などの理系学問を横断的に学ぶ「文理融合」の重要性が増しています。法文学部の丸橋充拓学部長は、「採択された8事業の中でも、私たちが最も文理融合の理念を色濃く反映していると自負しています」と今後の展開に期待を寄せます。

最新の材質分析で 古代史に新知見を

法文学部の山陰研究センターは、これまでも学部内外の研究者たち



PROFILE

法文学部長
丸橋 充拓 教授
まるはし みつひろ

私は唐の時代を中心に中国の軍事史を研究していますので、今回の取組では武器がどの地域で使われたかが分かることなどに期待しています。文理融合で得られた新たな知見は、さまざまな分野に革新的な発想のヒントを生み出してくれるでしょう。

が共同で研究を行うプロジェクトを実施してきました。例えば、現在継続中の「既掘考古資料の集成検討(一部略)」では、古くに発掘・出土した遺物を現在の学術水準で再検討し、歴史文化遺産としての持続的活用を目指しています。

また、先鋭研究領域創出を目指して島根大学が2022年度から進める学部改革で、法文学部が掲げたテーマは「青銅器・青銅器文化・金工技術研究を核とした考古学の国際的拠点形成」。東北大学金属材料研究所などと連携し、レーザーや放射光などの量子ビームによる材質分析で新知見を得ることを、狙いの一つに定めています。

学際領域展開ハブ形成プログラムの第1期フェーズは、「文化の起源を金属元素から探る」で、これまでの法文学部の取組とも大きくリンクします。「山陰は、全国的に見ても圧倒的に大量の青銅器が出土しているフィールド。文化財の保存・活用は人・財両面におけるリソース不足で近年苦況つづきだったので、今回は文理さまざまなマンパワーが集結します。古代史の書き換えもあり得るかもしれません」と丸橋学部長。先鋭的な研究に注目です。